

引用文献

- 厚生労働統計協会(2016). 国民衛生の動向 2017/2018. 64(9).
- 吉邨喜孝(2013). 精神科リエゾンチーム医療の現状と課題. 総合病院精神医学, 25(1), 2-8.
- 厚生労働省(2015). 個別事項(その2: 精神医療) www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku.../0000102476.pdf 43.
- 厚生労働省保険医療課(2016). 平成28年度診療報酬改定の概要, www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000115977.pdf 101.
- 宇佐美しおり, 福嶋好重, 野末聖香(2009). 熊本大学医学部保健学科紀要, 5, 9-18.
- 野末聖香(2013). 精神科リエゾンチームによる介入の効果と課題 リエゾンナースの役割. 精神神経学雑誌, 第180回日本精神神経学会学術総会, 626-633
- 野末聖香. (2004). リエゾン精神看護. 野末聖香(編), リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために(pp. 4). 医歯薬出版株式会社.
- 和田攻, 南裕子, 小峰光弘(編). (2010). リエゾン精神看護. 看護大事典第(第2版)(pp. 2918). 医学書院.
- 山中康裕, 東山紘久, 成田善弘, 亀口憲治, 氏原寛(2004). 心理臨床大事典, 培風館.
- 野末聖香. (2004). リエゾン精神看護. 野末聖香(編), リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために(pp. 4). 医歯薬出版株式会社.
- 南裕子. (2009). 国内外における高度看護実践家の発展と今後の展望. 宇佐美しおり, 野末聖香(編), 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法(pp. 2). 日本看護協会出版会.
- Lippincott Williams & Wilkins(2000). The Psychiatric Consultation/Liaison Nurse Role in Case Management. Nursing Case Management, 5(2).
- 木村智. (2004). コンサルテーション・リエゾン精神医学. 山中康裕, 東山紘久, 成田善弘, 亀口憲治, 氏原寛(編), 心理臨床大事典(pp. 787). 培風館.
- 岩崎徹也, 黒沢尚, 保坂隆(1989). コンサルテーション・リエゾン精神医学の課題. 東海大学出版会, 4.
- 野末聖香. (2004). リエゾン精神看護. 野末聖香(編), リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために(pp. 4). 医歯薬出版株式会社.

日本看護協会. 資格認定制度 専門看護師・認定看護師・認定看護.

<http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns>

野末聖香. (2004). コンサルテーション. 野末聖香(編), リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために (pp. 209). 医歯薬出版株式会社.

PRINCIPLES OF PREVENTIVE PSYCHIATRY(1964). 新福尚武(訳), カプラン予防精神医学. 朝倉書店.

ADVANCED PRACTICE NURSING An Integrative Approach 5th EDITION(2014/2017). 中村美鈴, 江川幸二(訳), 高度実践看護統合的アプローチ. へるす出版.

遊佐安一郎(2004). 山中康裕, 東山紘久, 成田善弘, 亀口憲治, 氏原寛(編), 心理臨床大事典. (pp. 1260) 培風館.

GENERAL SYSTEM THEORY. (1968/1973). 長野敬, 太田邦昌(訳), 一般システム理論. みすず書房.

遊佐安一郎(2004). システムズ・アプローチ. 山中康裕, 東山紘久, 成田善弘, 亀口憲治, 氏原寛(編), 心理臨床大事典. (pp. 1260) 培風館.

James Grier Miller(1978). Living Systems. McGraw-Hill.

遊佐安一郎(2004). システムズ・アプローチ. 山中康裕, 東山紘久, 成田善弘, 亀口憲治, 氏原寛(編), 心理臨床大事典. (pp. 1260) 培風館.

光元和憲 (2004). 山中康裕, 東山紘久, 成田善弘, 亀口憲治, 氏原寛(編), 心理臨床大事典. (pp. 1252). 培風館.

遊佐安一郎. (2011). 家族が危機を乗り越えるための援助. 天賀谷隆, 遠藤淑美, 小川貞子, 末安民生, 中野栄, 吉浜文洋(編), 精神看護テキスト改訂版 対人関係/グループアプローチ/家族関係 (pp. 149). 精神看護出版.

檜林理一郎(2013). 家族療法の理論. 日本家族研究・家族療法学会(編), 家族療法テキストブック (pp.26). 金剛出版.

渡辺俊之. (2009). システミックなコンサルテーション 吉川悟(編), システム論から見た援助組織の協働 組織のメタ・アセスメント (pp. 86). 金剛出版.

Entropy. (1980/1982). 竹内均(訳), エントロピーの法則. 祥伝社.

GENERAL SYSTEM THEORY. (1968/1973). 長野敬, 太田邦昌(訳), 一般システム理論. みすず書房.

- James Grier Miller(1978) Living Systems. McGraw-Hill.
- FAMILY NURSING Theory and Assessment(1986/1996). 野嶋佐由美(訳), 家族看護学 理論とアセスメント. へるす出版.
- FAMILY NURSING Theory and Assessment(1986/1996). 野嶋佐由美(訳), 家族看護学 理論とアセスメント. へるす出版.
- 遊佐安一郎. (2004). システムズ・アプローチ. 山中康裕, 東山紘久, 成田善弘, 亀口憲治, 氏原寛(編), 心理臨床大事典(pp. 1260). 培風館.
- 川原由佳里. (2015). 付録. 筒井真優美(編), 看護理論家の業績と理論評価(pp. 538-540). 医学書院.
- Patricia Benner(1985). 一般システム理論と看護. 看護研究. 18(1), 46-47.
- 加藤裕一. (2004). 小林司(編), カウンセリング大辞典(pp. 292). 新曜社.
- 鈴木和子. (2012). 看護における家族の理解. 鈴木和子, 渡辺裕子(編). 家族看護学理論と実践(第4版)(pp. 50). 本看護協会出版.
- 福島鏡. (2017). 家族システム論. 岡本真知子, 萱間真美(編), 家族ケア(pp. 8), 中央法規.
- 鈴木和子. (2012). 看護における家族の理解. 鈴木和子, 渡辺裕子(編). 家族看護学理論と実践(第4版). (pp. 51-52). 日本看護協会出版.
- ADVANCED PRACTICE NURSING An Integrative Approach 5th EDITION(2014/2017). 中村美鈴, 江川幸二(訳), 高度実践看護統合的アプローチ. へるす出版.
- 野末聖香. (2004). リエゾン精神看護. 野末聖香(編), リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために(pp. 25). 医歯薬出版株式会社.
- 野末聖香. (2004). コンサルテーション. 野末聖香(編), リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために(pp. 210). 医歯薬出版株式会社.
- 遊佐安一郎(1990). 認知療法・行動療法・家族療法の接点. 現代エスプリ 272, 至文堂, 204.
- 川名典子. (2005). リエゾン精神専門看護師の役割. 南裕子(編), アクティブ・ナーシング 実践オレム-アンダーウッド理論 こころを癒す(pp. 332-335). 講談社.
- American Psychiatric Association. (2013/2015). 高橋三郎, 大野裕(訳), DSM-5 精疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院, 284.

- 柴田ゆり, 宇佐美久枝. (1996). ナイチンゲールの戦略 システム論に基づく社会変革. 日本システム看護学会(編), システム論による看護の実践 家族看護で効果を発揮する問題解決技法集(pp. 68). 日総研教育事業グループ.
- 森山美和子. (1996). 家族システム看護の実践. 日本システム看護学会(編), システム論による看護の実践 家族看護で効果を発揮する問題解決技法集(pp. 29). 日総研教育事業グループ.
- 渡辺俊之, 池田公, 長野広敬(1993). リエゾン精神医学におけるシステム理論の臨床意義. 臨床精神医学. 23(6), 611-617.
- 宮田郁(2016). がん医療における心身医学の役割 多職種の立場から がん医療における心身医学的ケア リエゾナーズの立場から. 心身医学. 56(3).
- 福田紀子(2014). 【困っていませんか？患者さんへのこころの動き否認・怒り・退行への対応】否認の強い患者に関わる医療チームに生じる問題とその対応. 緩和ケア. 24(3).
- 平井元子(2012). 誌上リエゾン精神看護・コンサルテーション (最終回) 一緒に考えよう 母子関係への理解が欠かせないとも不安が強い患者と母親への対応. 臨床看護. 38(10).
- 平井元子(2012). 誌上リエゾン精神看護・コンサルテーション (第5回) 一緒に考えよう 「患者の意思を尊重する」とは？；終末期にある患者とのかかわり. 臨床看護. 38(9).
- 平井元子(2012). 誌上リエゾン精神看護・コンサルテーション (第4回) 一緒に考えよう 「とげのある口調」などがみられ怒りやイライラ感が強い患者への対応. 臨床看護. 38(8).
- 平井元子 (2012). 誌上リエゾン精神看護・コンサルテーション (第3回) 一緒に考えよう 「気分の落ち込み」などから抑うつ状態が考えられる患者への対応. 臨床看護. 38(7).
- 平井元子(2012). 誌上リエゾン精神看護・コンサルテーション (第2回) 一緒に考えよう 「一人でいるのが不安」と、連日のように訴える患者への対応. 臨床看護. 38(6).
- 鈴木靖子(2010). ナースのストレスマネジメント いきいきと働き続けるためのリエゾナーズからのアドバイス (第12回) 看護師としての節目の経験 希望を失わずに成長するために. 看護技術. 56(14).
- 平井元子(2010). コンサルテーション事例に学ぶケーススタディ 一般病棟で遭遇する困難事例への対応 家族の対応に迷う事例(その1). ナース専科. 39(5).

- 平井元子(2010). コンサルテーション事例に学ぶケーススタディ 一般病棟で遭遇する困難事例への対応 家族の対応に迷う事例(その2). ナース専科. 30(4).
- 曾根原純子(2007). 入院患者のうつ 院内での予防と看護ケア】事例 他に主疾患のある患者へのケア. ナーシング・トゥデイ. 22(27).
- 福田紀子(2007). 【命の看取り】患者を看取る看護師へのケア. 緩和ケア. 17(2).
- 川名典子(2006). 【それは本当に「寂しいコール」? 「不定愁訴」の落とし穴】患者の不定愁訴への対応 解決のヒント. ナーシング・トゥデイ. 21(13).
- D'Afflitti JG. (2005). A psychiatric clinical nurse specialist as liaison to OB/GYN practice. J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 34(2).
- Sharrock J, Happell B (2002). The role of a psychiatric consultation liaison nurse in a general hospital: a case study approach. Aust J Adv Nurs. 20(1).
- 片平好重 (2000). 【精神症状につよくなる】怒りを表す患者への対応 リエゾンナースとしての事例へのかかわりから. 看護学雑誌, 64(8).
- Lippincott Williams & Wilkins, (2002). The Psychiatric Consultation/Liaison Nurse Role in Case Management. Nursing Case Management. 5(2).
- Ryan JM, Clemmett S, Snelson A. (1997). Role of a psychiatric liaison nurse in an A&E department.
- Van Fleet SK, Hughes MK. (1996). Psychiatric CNS consultation model in a medical setting.
- Ragaisis KM. (1996). The psychiatric consultation-liaison nurse and medical family therapy. The psychiatric consultation-liaison nurse and medical family therapy. Clin Nurse Spec. 10(1).

謝辞

本研究の作成に当たり、多くの方々にご指導とご支援をいただきましたことを、ここに、心より深く感謝を申し上げます。

本研究に取り組む機会を与えてくださり、適切なご指導を賜りました聖路加国際大学精神看護学研究室 教授 萱間真美先生には、心より深く感謝を申し上げます。

本研究の執筆に際し、准教授 角田秋先生には、なかなか執筆まで至れず大変ご心配をおかけいたしました。が、暖かい励ましとご指導をいただき書き上げることができました。心より感謝を申し上げます。

本研究のテーマを決めるにあたって、丁寧に話を聞いて一緒に考えてくださり、いつも励ましてくださった精神看護学研究室の助教 福島鏡先生、青木裕見先生 中嶋秀明先生 石井歩先生に心より感謝を申し上げます。また、MK ゼミで励ましとご意見をいただいた諸先輩、後輩の皆様にも心より感謝を申し上げます。

これまでの2年間、授業でご指導いただいた先生皆様、実習を担当してくださった皆様、実習にご協力いただいた患者様、病院関係の皆様には、理論と実践を学ぶ貴重な機会を与えていただきましたことを心より感謝を申し上げます。

この2年間支えていただいた大学院の同期の皆さんにも心から感謝を申し上げます。皆さんの暖かい励ましや支援があつてこそ、ここまで続けてくることができました。また、優秀な皆さんと話をすることで、たくさんの刺激をもらいました。本当にありがとうございました。

私の進学を理解し応援してくれた家族に、改めて深い感謝の思いを伝えたいと思います。

2018年1月30日